

林・顧・川崎：上海の公共図書館と生涯教育

上海の公共図書館と生涯教育

林 鶴
顧 震 宇
川 崎 良 孝

Shanghai Public Libraries and Lifelong Education

LIN He

GU Zhen Yu

Yoshitaka KAWASAKI

抄 録

知識経済の発展と都市化に関して、今日の公共図書館はあらゆる都市でますます重要な役割を果たしている。世界をみわたしても、公共図書館の役割の重要性は歴然としている。新しい時代の都市の発展と社会の進展のために、どのように強力な図書館システムを構築するかは、行政当局や市民が注目する重要な施策の1つである。本稿の著者はかなり詳細に、公共図書館が生涯教育に果たす固有の見解を土台に、上海図書館の全体的な社会教育サービスと結びつけて、公共図書館が提供する生涯教育の特徴、様式、機能、発展を分析した。さらに上海市の発展にたいする上海図書館の生涯教育サービスの位置と影響も検討する。

キーワード：公共図書館、生涯教育

目 次

- 1 図書館と生涯教育
 - 1.1 中国での生涯教育の考え
 - 1.2 生涯教育における公共図書館の機能と役割
 - 1.3 教育における図書館の特徴と強さ
 - 1.4 上海図書館の生涯教育サービス
- 2 上海市の都市文化と図書館での生涯教育
 - 2.1 上海での生涯教育の発展
 - 2.2 上海市の文明と精神の概要
 - 2.3 上海市の豊かな息吹
 - 2.4 市民の情報処理能力の育成
 - 2.5 コミュニティでの生涯教育の展開
- 3 デジタル化、ネットワーク、それに図書館での生涯教育
 - 3.1 伝統的図書館での生涯教育にたいするネットワーク環境の影響

- 3.2 遠隔教育の発展
- 3.3 遠隔教育における図書館の位置と役割
- 3.4 上海図書館の遠隔サービスと生涯教育
- 4 公共図書館での社会教育サービスの動向
 - 4.1 複合型・専門家型の図書館員
 - 4.2 人間性重視の生涯教育サービス
 - 4.3 活動的な遠隔教育サービスの全面展開

結 論

謝 辞

注

参考文献

1 図書館と生涯教育

1.1 中国での生涯教育の考え

中国の場合、生涯教育という言葉は新しくないといえるかもしれない。孔子は次のように述べている。

わたしは15歳で学問に志し、30歳で一本立ちとなり、40歳で迷いがなくなり、50歳で天から与えられた使命をさと、60歳で人のことばをすなおに聞けるようになり、70歳で自分の思うままに行ってもゆきすぎがなくなった。

『論語』貝塚茂樹訳注 中公文庫 1973 p.32-33]

人生についての意義深い示唆によって、この言葉は数千年にわたって中国で非常に有名なことわざになった。孔子のことわざは、中国での生涯教育について最も初期の萌芽といえるだろう。

20世紀になり、次第に知識経済社会が形成され発展してきた。それにつれて、知識が古くなる速度、それに知識が新しくなる速度が飛躍的に高まってきた。前者についての調査によると、知識が5年後に使い物にならなくなる比率は1950年代の25パーセントから、1960年代には30パーセントに高まり、1970年代には一気に48パーセントになった¹⁾。またアメリカ・エンジニア協会 (American Engineering Association) の調査によれば、大学時代に学んだ知識は仕事に必要な知識の12パーセントに過ぎないとなっている²⁾。すなわち残りの88パーセントは仕事の過程で継続的に獲得しなければならない。現代社会にあって、伝統的な学校が提供する教育は、教育を受ける人の年齢、および教育を完了するのに必要な時期という制限を受ける。こうした伝統的な教育モデルの場合、住民の教育要求の増大や知識欲を充足しえない。有名な教育者のポール・ラングラン (Paul Lengrand) は、1965年12月にパリで開かれた国際成人教育促進委員会 (International Adult Education Promotion Committee) の第3部会セミナー (Third Session Seminar) で、生涯教育という新しい概念を発表した。教育は単に子どもや若い世代

を対象にするのではなく、すべての人にとって生涯にわたる継続的な学習であると述べたのである。1972年、ユネスコは「生涯教育」(Lifelong Education)を鍵となる概念、今後の教育革命の指導原理であると指摘し、この教育哲学が人間の生涯にわたって浸透しなくてはならないとした。ユネスコの調査報告書「教育：過去、現在、未来」(Education's Yesterday, Today and Tomorrow)²⁾によると、短期間の勉強では生涯にわたる知識を獲得できないとなっている。意識的に展開する知識体系の構築には、生涯にわたる学習が必要である。すなわち「生きるために学ぶ」(Learn to Live)のである。

生涯教育の特徴としては以下を指摘できる。(1)生涯教育は人間の一生を通じて展開される連続的で継続的な過程である。(2)生涯教育は社会の各個人にとって基本的人権である。年齢、性別、職業、居住地にかかわらず、だれもが学ぶ権利を有する。(3)生涯教育は教育や学習についての単純な概念ではなく、1つの社会的行動、生活様式である。(4)生涯教育は学校外での学習の重要性を強調し、学習の内容、時間、空間を拡大する。(5)生涯教育は意識的な個人による目的が明確な活動で、意識的でない学習は含まない。

1.2 生涯教育における公共図書館の機能と役割

公共図書館は社会教育システムの下位システムである。社会教育の基盤として、公共図書館は何らの教育的な相違とも無縁で、公平な教育原理を実行する。そして公共図書館の利用という意志を持つだけで、だれもが利用できる。利用によって、知識を新しくしたり、仕事に関する進んだ研究をして、各自の生涯教育思想を実現させる。

公共図書館は莫大な文献をストックしている。形態や様式(図書、雑誌、新聞など)は多様で、また知識や情報のための媒体(紙、マイクロフィルム、オーディオ・ビデオ、電子刊行物、インターネットなど)もさまざまである。そうしたすべての文献に価値ある知識や情報が入っている。それはすべての学問分野や人間生活の全範囲をおおい、国の内外の秀才や天才が生み出したものである。公共図書館はかけがえのないストックと伝統の手立てに創造的な手立てを加えて、社会的な生涯教育に固有の役割を能率的に果たすことができる。それは、道徳と倫理、文化的業績、専門的技能といった領域においてである。公共図書館で読者は自力で勉強できる。自分が出会った特定の問題に早急な解決が必要な場合、それに自分が興味ある主題に継続的、定期的に知識を求める場合もあろう。公共図書館は穏やかで集中できる読書環境をそなえており、読者が必要とする知識を探求するについて、自学や研究への意識の育成に大いに助けとなる。

本研究の結果、生涯教育における公共図書館の主たる機能は次のようになった。

(1) 知識の案内所

時代を問わず、図書館は偉大な宝庫として、知識を求める人や自己向上を願う人を無数に引きつけてきた。図書館にとって、人びとは大いに知識を求めており、多種多様な図書や資料を読みたがっている。こうした要求に対応する方策の1つとして、図書館が読書や研究について一連の広報活動を企画し実施することが、緊急の課題となる。そうした活動は、読者のさまざま

まな意識的、無意識的な要求を検討した上で、有用なストックと高度な手立てを土台にしたものでなくてはならない。筆者はこうした活動を知識案内と定義するが、現在の上海図書館が実施していることは以下のとおりである。新刊展示会、学術講演会、研修会、書評会、読書・討論会の開催。住民へのレファレンス・サービスの提供、社会やコミュニティでの大規模な読書運動の組織化。こうした広報活動の主目的は、研究や学習についての住民の関心を増大させ促進することにある。読者の自学や研究の能力は、読者が意識せずとも育成や向上が可能である。それは図書館職員の助けのもとに特別な文献を検索したり、図書を他の人と楽しく読んだり、討論したりすることによる。読者が知識を求める過程に、高質の案内やレファレンス・サービスを置くことは、公共図書館が生涯教育で重要な機能を果たすことになる。また自己を磨こうとするますます多くの読者を図書館に引き入れ、そうした過程で生涯教育の考えを社会に広めることになる。

(2) 最新知識の提供所

2020年に必要とされる知識の90パーセントは今後に生まれる知識であり、大学卒業時に獲得した知識の60パーセントから70パーセントが使い物にならないということである³⁾。このことは、確かに学校教育は非常に重要ではあるが、社会の発展が求めるすべての知識を充足できないことを示している。「学校でほんの数年間つめ込んで、一生涯にわたって社会に仕える」という考えは、いまや通用しない。1つの職業に1つだけの技術、それを一生の取り合わせにするといったことは、もはや存在しない。人びとは継続的、連続的に教育を受けねばならず、既存の知識を拡大したり最新にするために、また新しい知識を吸収するために、さらには自分の知識構造をうまく調整するために、自学をしなくてはならない。こうした社会状況にあって、図書館は知識の宝庫、情報の中心地として、知識を求める人に最新知識の提供所になる義務がある。図書館の持つすべての図書、雑誌、新聞、多種多様な形に加工された情報は、まちがいなく読者に有用な資源である。読者の知識を向上し、最新にするについて、かけがえのないものである。

(3) 仕事のための知識再充電所

職業教育についての需要は大きい。というのは人口が膨大で、未発達の状態や歴史的な問題があると同時に、正しい案内役となる指導者層を欠いていることによる。次のような研究結果がある⁴⁾。年毎にみて、中学校卒業者のうち1,000万人が高校に進む機会がない。高校卒業者のうち400万人が大学やカレッジでの教育を受けることができない。それに現在でも15歳以上のうち12パーセントは読み書きができない。2000年までに3億人が転職し、そうした人は継続的な教育と訓練を渴望するグループになっている。こうしたグループへのサービスは公共図書館にとって重要な責務、サービスの標的で、「第2次希望プロジェクト」⁵⁾と命名してよいだろう。公共図書館の提供する生涯教育サービスは、他の機関が提供する教育や訓練と結合することによって、読者の学習能力の向上、知識領域の拡大、知識構造の最新化をもたらす。また読者の思想や考え方を改めて、社会や仕事の変化への適応力を高めるし、決定や管理運営の能力も高

める。さらにつけ加えると、今日のエンジニアの場合、自分の知識は5年で半減してしまう。情報化時代における社会と技術の進展に遅れを取らないには、継続的／連続的な教育が欠かせない。

(4) 創造性の孵化器

創造性は、国の進展の基本となる精神であり、また国の経済を動かす強力なエンジンでもある。社会が継続的に進展、発展するには、社会と個人の創造的能力を継続的に育成する必要がある。そこでは社会化された創造的教育と創造的教育システムの構築が欠かせない。今日、学問と研究開発の業績は進展し、日ごとに変化を生んでいる。先進分野と複合分野が結びついた学問が次々と生まれ、科学者、技術者、エンジニア、それに管理者は、新しい思想、概念、知識を吸収して、焦点となる学問分野の最先端を学び、習得しなくてはならない。そうした知識を探すに際し、図書館だけが最善の手段となる。図書館が蓄積している知識は、生き生きとした思考を喚起する。そして新しい見解、思想、理論、方法の探求を鼓舞して、無意識の創造性が最大限に働くようにする。したがって、公共図書館は確かに創造的能力と知識創造を育成する自然孵化器である。そして社会全体の創造的機能のための滋養に満ちた養分を提供する。

1.3 教育における図書館の特徴と強さ

(1) 本当の柔軟性で広い領域を扱う

公共図書館での読書や研究は、年齢、時間、性別、職業、それに居住地で左右されない。また学校システム、専攻分野、教科書、科目、環境に規定されない。したがって読者自身の選択、計画、研究、向上の要求に完全に合致する。そして生涯にわたる教育および再教育に、図書館の活用という善き習慣の育成に向けて、読者を導くことができるだろう。そのことによって読者は全人的な発達を達成できる。

(2) 図書館教育の効率と利益 (High education efficacy)

主として“High education efficacy”とは、図書館教育の効率と利益を意味する。図書館教育の効率は、一定の時間のあいだに図書館で教育された人びとを示し、さらにそのことによって影響を受けたり、変化を生じたり、目的を達成した場合をいう。図書館教育の利益は、図書館教育が個人、社会、時代に積極的な影響を与えたことをいい、たとえば目的を達成したり、利益を得た場合をいう。ところで現代的な図書館は、読者に知識への容易で迅速なアクセスを提供する。図書館のデジタル化やネットワーク化によって、読者は必要な情報をすぐに探せるようになる。図書館教育は読者の文献検索の能力と技能を最新にし、情報の活用法を最大限にする。さまざまな種類の情報案内サービスは読者の研究の効率と質の向上を助け、文献に埋もれている潜在的価値を掘り起こして、現実の価値に変換するのに役立つ。そして新しい知識、科学、技術の商品化に寄与するのである。それと同時に読者は自分の習慣を土台に、明確な目的と強固な機能を持って、図書館の外で研究できる。情報への社会的な要求、それに知識の更新は速度を速めており、研究のセンター、情報の中心地、教育の中核拠点としての図書館の役

割は、重要性を高めている。またますます多くの読者が図書館での教育に積極的になってきている。図書館教育の利益は目にみえない影響を果たしており、多くの面で無上の価値がある。たとえば読者の能力、才能、適応力、自己修養力の向上、知識の蓄積、人生、世界、価値についての見方の形成、それに一連の思想の変化といったことである。

1.4 上海図書館の生涯教育サービス

1.4.1 上海図書館の教育資源

(1) 膨大なストックと情報資源

大量のストックと情報資源が、生涯教育の物理的土台となる。現代社会でのデジタル情報の発展とともに、文献資源はますます多くなり、知識を運ぶ媒体は多様化するだけでなく、急速にデジタル化している。マイクロフィルム、マイクロシート、オーディオ・ビデオ、電子図書、マルチメディア生産品などが、図書館の情報能力を拡大し豊かにしている。さらにデジタル化された図書館ネットワークの構築が、図書館のヴァーチャルなストックになる。強力な物理的土台としての豊富な資源は、読者の研究に必要な多種多様な知識を提供できるだろう。そして、あらゆる方面、あらゆる層からのさまざまな情報要求を満足させる。上海図書館は強力なストックを築き上げて、こうしたことを十分に現実化している。たとえば伝統的な媒体（印刷体とマイクロフィルム）では、1,000万冊の図書と3,000万点の特別文書がある⁹⁾。また国内外の11,000点の電子図書があり、ネットワーク上で20種以上のデータベース、それに40種以上のCDデータベースを擁している。また中国語の電子ジャーナルは5,000点以上、国外の電子ジャーナルは3,000点以上である。

(2) 高度なハードウェアとネットワーク

常に最新の状態にあるネットワークと検索システムが、上海図書館の生涯教育を技術面で強力に支えている。コンピュータ化と通信回線の技術が、上海図書館を隅々まで支えている。また世界中の多くの図書館や情報資源とも結びついている。高度ネットワークは情報の共有を容易にし、すべての情報の普及と活用の効率を高める。高速ネットワークで伝達されたマルチメディア情報は、すぐれた相互作用と知的活動のための学習環境を創出する。CDデータベースやウェブを活用しての高度な情報検索手段は、読者が必要な情報や文献を自学の過程で探すにあたって、時間とエネルギーを節約する。そして効率を増すことになる。これらはすべて、上海図書館が生涯教育という機能を実行するに際して、強力な技術的支援となっている。

(3) 複合型の図書館職員

図書館職員は生涯教育のために良質の知識を案内できる。上海図書館には高度な文化をそなえた職員、専門的サービスに確固たる技能を有する職員がいる。そうした職員は、読者に知識や情報を素早く容易に獲得する方法を教える。また読者が情報獲得についての正しい技能と方法を習得する手助けをする。それだけでなく膨大な情報資源の加工、ネットワーク上の資源を秩序ある集合体に組織／処理する。それらは読者の便宜を考えて、容易なアクセスを構築する

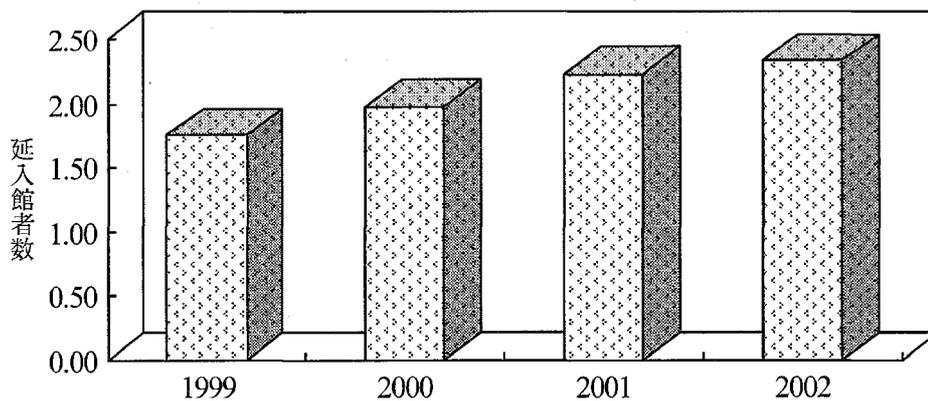
ためである。

1.4.2 上海図書館の教育サービス

(1) 広範で深い教育サービス

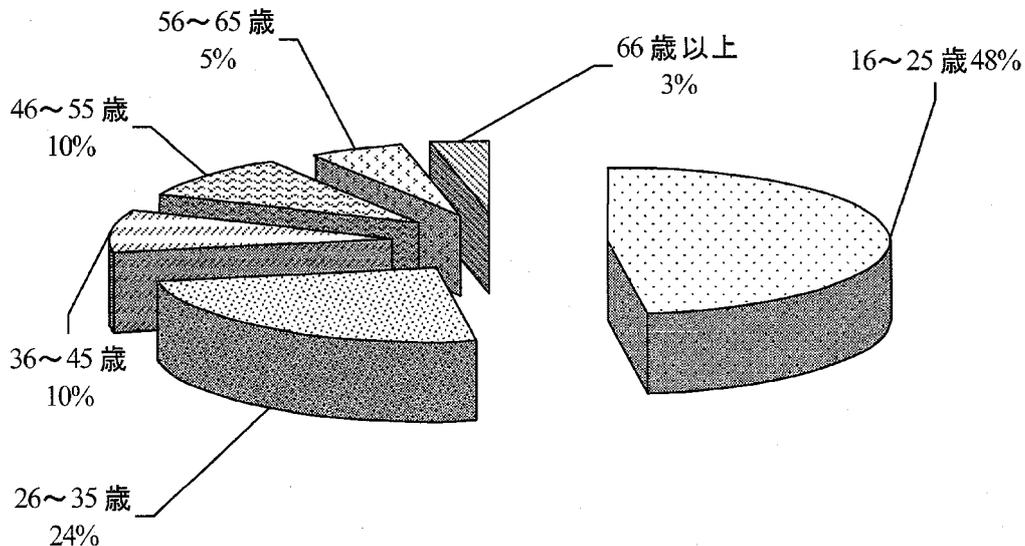
上海には1,300万人の住民と600万人の一時的な住民が住んでいる⁷⁾。1995年以降、上海図書館は全体として延50万枚の図書館カード⁸⁾を発行し、毎年20万枚を更新、発行している⁹⁾。ここ数年をみると、年毎の上海図書館の延入館者数は次第に増加している。2002年の場合は233万人を超え、平均すると1日当たり6,384人になる。参考として図〈1〉「上海図書館年次別延入館者数：1999-2002年」、図〈2〉「上海図書館利用者の年齢構成：2002年」、表〈1〉「上海図書館入館者の職業と学歴：2002年」を掲げておいた。

図〈1〉 上海図書館年次別延入館者数：1999-2002年



注：延入館者数の単位は100万人。

図〈2〉 上海図書館利用者の年齢構成：2002年



表〈1〉上海図書館入館者の職業と学歴：2002年

職 業	延入館者数
労働者	142,728
軍 人	10,053
公務員	73,789
科学技術関係者	186,162
教 員	95,622
芸術関係者	11,894
企業従業員	366,335
小売業従業者	51,254
医者・看護師	32,155
学生・生徒	853,652
私企業ビジネスマン	11,952
無 職	50,075
学 歴	延入館者数
大学院(生)	185,763
大 学(生)	699,030
短期大学(生)	534,128
高等学校(生)	712,518
中 学(生)	86,997

(2) 豊かな内容と多様な様式の教育サービス

正しい情報を適切な時にふさわしい人に提供するために、従来から閲覧、貸出、SDIなどを教育サービスに適用してきた。それらに加えて、上海図書館は新しい文化の普及、新しい知識の提供、技術的スキルの教育、一般的な知識の普及のために、多くの新しい手立てを探ってきた。たとえば、公開展示会、講演会、特別な報告会や研修会、それに職業訓練などである。そのいくつかの例を以下に示しておく。

▶ 職業訓練

※職業訓練：上海市政府はかなり前から、情報技術の発展を強調し、コンピュータ操作の普及に力を注いできた。情報化社会は情報技術とコンピュータ操作の基本的な考え、能力、技能を持つ莫大な人材を必要とする。これは上海図書館にまたとない機会となった。住民のコンピュータ操作の技能と水準、それに英語力を最新にするために、上海図書館の力を最大限に活用するということである。上海図書館の1つの部門の教育訓練センターは、長期にわたってこの領域に注意を払ってきた。そして1995年から2002年にかけて約10,000人を訓練したのである。主なコースには次のようなものがある。中国語での入力方法、ネットワークの基本操作、上海市民

コンピュータ技能試験のための訓練、職場オートメーション、英語専門職用の試験のための訓練、基礎英語、英語会話など。上海図書館は市民のコンピュータ操作の技能と水準、それに英語力の向上に重要な役割を果たしている。

※図書館員と情報専門職の訓練：さらに上海図書館は図書館員や情報専門職を対象とする教育と訓練を実施している。これには異なる水準のプログラムを用意し、上海の各所から参加者がいる。大学やカレッジでの図書館情報学部の教育と比較すると、上海図書館が提供する教育と訓練は実務的である。この数年、教育訓練センターは一連の訓練計画を作成して実行した。要するにこれらのプログラムは図書館や情報の分野の職員を対象とするもので、あらゆるレベルの異なる社会的な要求を土台にしている。教育訓練センターが組織した主たるプログラムが表〈2〉「上海図書館主催の図書館員や情報専門職のための主要プログラム」である。

▶連続講演会と報告会

上海図書館の講演会は有名なサービスで、25年の歴史がある。社会からの要求が高まるにつれて、単発の概況を提供する講演会から、複数の講演会からなる10件の講演シリーズに成長した。そしてさまざまなグループのニーズを充足するために、多くの領域の異なった水準のプラ

表〈2〉「上海図書館主催の図書館員や情報専門職のための主要プログラム」

プログラム	主たる内容
上海市図書館学校の教育	正規教育に組み込まれる中等学校教育で、初級図書館員と図書館補助員を教育する。
図書館文献職員の現職者訓練のための上級クラス	上海の図書館、情報センター、資料室などで仕事をしている職員用の現職者訓練プログラム。図書館事業と現代の情報技術の発展に応じて、図書の管理、文献の分類、目録作成などを取り上げる。現職者の知識、能力、技能の向上と最新化、および勤務する機関の標準化を目的とする。試験に合格した参加者には、修了証書を授ける。
図書館情報学修士のための訓練プログラム	大学院生レベルの現職者訓練プログラムである。上海での文献／情報資源のコレクションと活用の共有を展開するにあたって、対応ができるように、図書館の領域で高い文化、教育、能力をそなえた、学術的人材、中級／上級レベルの監督者の養成を目的とする。
図書館情報学研究の上級クラス	図書館や情報センターの高位の中核職員や管理職を対象とする現職者訓練プログラム。「上海での文献／情報資源のコレクションと活用の共有を展開」するにあたって、執行することを目的とする。定評ある教授を迎えて講義を行う。講義の主たる題目は、現在の図書館情報学の先端部分を提示し、それを分析することにある。参加者は単なる聞き手ではなく、具体的なプロジェクトを実施し、定められた期間内に完成しなくてはならない。

グラムを組んでいる。講演会は非常に好評で、「情報を伝達する最も幅広い架け橋、新しい知識を学習する最大の教室、政府と住民を結ぶ最善の紐帯、大学の壁がない真の大学」とされている。メディアは上海図書館の講演会を、改革と開放の普及者、培養者、それに解釈者と呼んでいる。現在までに、概況を主題とする講演会は700回を超え、1,200以上の機関からの参加者がいる。最近になって、住民はますます講演会に注目するようになった。2002年には50を超える講演会が開かれ、総参加者は20,000人である。2003年の場合、約100の講演会を計画している。多くの著名な教授、専門家、研究者を招き、講演とともに参加者と対話も行っている。たとえば、中国工學院の有名な地下工学者の劉建航、上海高等人民法院院長の滕一龍、著名な経済学者の呉敬璉、有名なテレビ出演者の楊瀾、それに現代の有名作家である王蒙といった人物である。聴衆は文化、芸術、科学の真髄を感じるだけでなく、演者の大成功した人生行路、優雅な態度や表情を味わうことができる。上海図書館の講演は、「情報伝達の重要な窓口、効率のよい学習への容易な道、心休まる楽しい学校、能力を示す大舞台」になりつつある。表〈3〉「上海図書館主催の10件の講演シリーズ」では、上海図書館の連続講演会について示しておいた。

表〈3〉「上海図書館主催の10件の講演シリーズ」

シリーズ	開始年 講演回数	主 題
大規模な概況講演会	1978年 700回	現在の出来事やニュースを追う。社会的に注目を得ている事柄を知る。文化的な現象を理解する。新しい科学を広める。
情報化講演会	1999年 20回	情報生活について話す。情報技術から生じる利点や楽しみを理解、享受するために、市民にたいして情報についての知識を広める。
新世紀フォーラム	2000年 12回	定評ある専門家、教授、研究者、芸術家を講演者に招く。人間、文化、芸術、歴史についての多面的な見解を土台に、成功した講演者の魂の遍歴を味わう。芸術の見方をおして、定評ある専門家の精神世界に入り込む。名声ある学者の経験を聞いて思想的重要点を理解する。いずれも忌憚のないコミュニケーションを旨とし、参加者は講演者と対面の機会を持つ。
生徒フォーラム	2001年 5回	中等学校の生徒に広範な発表の機会を提供する。生徒は自分の才能の発表、実体験の蓄積、意見の交換、それに業績の発表をする。そのことで関心事について話し合う機会を創り出し、そこには有名な専門家も参加する。

シリーズ	開始年 講演回数	主 題
上海青年フォーラム	2002年 7回	現代青年の品位や特徴を高めるために、立派な若者を講演者に迎える。青年にコミュニケーション、討論、研究の土台を提供する。
法律知識講演会	2002年 4回	裁判所からすぐれた裁判官を招いて、法律と規則についての説明講演会を行う。市民は法律と規則についての理解を深めて完全にし、法律と規則の枠内に行動を限定すること、さらに法律と規則によって利益を守ることを学ぶ。
上海市の文化	2002年 9回	成功した人物が魂の遍歴を講演する。人生での不可解なことや圧力を説明する。人間、文化、芸術についての理解を高める。文化、投資と資金の管理運用、ライフスタイルについて、焦点になっている事柄を知る。
学術フォーラム	2002年 5回	学術研究者を招いて、科学と科学の精神に関する講演会を行う。参加者は絶え間ない思考と崇高な哲学を知ることができる。そこでは己の評判／利益を求めめるのではなく、良心、着実、不断といった態度で科学に専心し精力を注いできたことを示す。参加者は、自然の法則の探求という研究者の見事な成果を共有する。
知識と健康	2002年 5回	医療専門家や生物学教授を講演者として招き、健康についての新しい思想や概念、科学的情報、一般的な疾病に関する予防／対処を知る。参加者は知識を得るだけでなく、社会を真に配慮することも理解する。
著名専門家による 名作講演会	2002回 9回	著者の見解を見習う機会を提供する。文化鑑賞のために有名な作品に入り込むこと、歴史と人間性を理解すること、文学理解を最新のものにすることで、新しい文化観の形成と高度な「上海市の精神」の育成に資する。

注：講演シリーズはいずれも現在まで続いている。

(3) 教育サービスのための柔軟な経路

21世紀に入って、国際的大都市圏の上海では、住民の生活や仕事についての調子や様式が大きく変化した。人びとは余暇の時間を読書、会話などにいっそう使うようになった。そうしたことすべてが、時間と空間の点で図書館の活用に影響を与えている。それ以後、現代的な都市の公共図書館として、上海図書館は市の社会的生活のあらゆる変化に細心の注意を払っている。住民による上海図書館の資源へのアクセスは、いっそう便利で興味を持てるものでなくてはならない。そのため読書サービスでのあらゆる障害を除去する必要があり、サービス様式の継続

的な向上とサービス・システムの不断の創造が欠かせない。詳細な調査と統計にもとづいて、上海図書館は柔軟な経路を持つサービス様式を創出した。そのことで、固定した正面玄関受付デスクや硬直したサービス時間からなる単一のサービス様式を放棄した。現在のサービス・システムは「3つの結合」で構成されている。すなわち、まず点と面との結合、次に現場とネットワークの結合、最後に静と動の結合である。

※点と面の結合：上海共有資源活用調整機構の発展、展開とともに、上海中心図書館システムは上海市政府が始めた市の情報化を構築する1つの企てとして、大成功している。このシステムは新しい様式の図書館協力で、上海図書館を本部にしている。そして市内のさまざまな区、郡に散在している図書館、大学／カレッジの図書館、学術図書館が参加館になっている。もっとも管理、人事、財源については、いずれも何の変更もしておらず、従来のみである。この図書館システムは、資源の共有および共同の活用を基本思想、ネットワークを基盤に発展し、知識サービスの水準の向上を標的にしている。上海中心図書館システムは、異なるレベル〔区や郡など〕のすべての公共図書館、それに大学／カレッジの図書館、専門図書館がはじめて1つに統合されたものである。各図書館の管理機関はさまざまだが、図書館システム全体として標準化を行い、運営と活動にあたっている。最近になって、18の区や郡レベルの図書館、5つの大学図書館、2つの専門図書館が参加し、図書資源の運営についての共同ネットワークとなった。上海図書館と参加館の間は通信回線とコンピュータ技術を用いており、目録を共同して利用している。また図書の貸出返却は「共通図書館カード」を用いて、どの参加館でも利用できる。すなわちこのカードを持つ利用者は、自分が好むどの参加館から図書を借りてもよく、そして自分に便利などの参加館に返却してもよい。こうしたシステムによって、読者は1つの参加館から上海中心図書館システムが有するすべての図書を知ることができ、希望するなら借りることもできる。このシステムが動き出した後、各参加館の貸出はいずれも50パーセント以上伸びた。特に静安区と黄浦区の分館は、いずれも100パーセント以上伸びたのである。今後、上海は上海中心図書館システムを促進するために、毎年10館を参加館に加えていこう。そのことで上海地区の主要図書館をネットワークで結びつけるとともに、コミュニティ、村／町、さらに関係するサービス地点の方にも拡大していく。科学、合理、効率で運営され、非常に大規模な知識サービス・システムを形成するのである。

※現場とネットワークの結合：上海図書館でのデジタル資源とネットワーク・サービスの発展とともに、読者へのサービスの方法は、伝統的資源とデジタル資源の結合、それに現場でのサービスとネットワーク・サービスの結合に変容していった。上海の「100万家庭をネットワークに」という施策は成功した。また上海図書館が無料で提供したコンピュータ訓練講習によって、多くのさまざまな年齢の読者がコンピュータの操作に巧みとなった。そうしたことを前提として、ネットワーク上での図書の貸出返却ができるようになった。最近では、毎日100名ほどの読者がネットワークを通じて図書を借り、ホームページへのアクセス数は驚くほど増加しつつある。上海図書館のデジタル図書館計画は、高度で洗練されたデジタル技術とネットワーク技術を取り入れ、統一されたインターフェイスとソフトウェアの使用、それに統一した運営を行っている。このサービスには6つの利点、すなわち遠隔、迅速、包括、連続、

知性、独特といった特徴がある。また10,000点の資料を持ち、古書、民国図書⁹⁾、地方資料、科学技術報告書、国内外の雑誌、オーディオ・ビデオ、歴史的写真などがある。それらは9つの範疇に分けられている。上海の古画、上海の古話、音楽データベース、科学技術報告書、中国の新聞、民国図書、西洋の雑誌タイトル、科学技術パークなどである。こうした範疇は読者の要求と文献の特徴を土台にし、教育資源への多様な要求にうまく適合し、要求を充足することを目的にしている。

※静と動の結合：上海図書館は新館の中に固定したサービス・カウンターを用意しているだけでなく、「移動図書館」のチームを編成し、特定の地点にサービスを持ち込んでいる。そうした地点には、上海フォルクスワーゲン会社、閔行黄渡鎮、楊浦区延吉小区、長寧区の実験小学校などがある。これはサービスを上海市の隅々まで拡大することで、会社や機関、基本的な組織、特別なグループなどの要求を満たすためである。

1.4.3 公共図書館と大学図書館

公共図書館が提供する教育は比較的新しい教育様式であるが、学校教育と同じ役割を有しており、社会教育の重要な一翼を担っている。その主たる標的は、知識の学習、技能の教育、道徳力の育成、能力の訓練、才能の向上、意志力の鍛錬、気性の形成、社会発展の人材を生むための能力の強化にある。学校教育などと比較して、公共図書館での教育には固有の特徴がある。たとえば、教育の標的が広範なこと、教育期間が最も長いこと、最大限に広範な教育内容、多種多様な教育様式、最も高位の教育機能といったことである。公共図書館での教育の特徴と利点をはっきりさせるために、以下に公共図書館と大学図書館の比較を示しておく。

※教育理論：大学やカレッジの教育は、体系的な専門教育、能力教育、知識教育に集中しており、専門教育を重視して、教育結果は試験で点検する。したがって大学図書館が提供する教育サービスは、専門分野に焦点を当てる場合が多い。すなわち各学問分野での業績を土台にして、資料や文献を収集し蔵書を構成する。一方、公共図書館が提供する教育サービスは、公教育と総合的（あるいは一般的）教育に集中する。そして教育の全体性や教育された人の総合的向上に的を置く。また社会教育の関知されない影響力や創造的機能を強調する。教育結果は、学習者自身による能力の強化と向上によって点検されたり、社会や個人の言及による。

※教育内容と資源：大学やカレッジの図書館は専門分野の体系的な計画によって、そうした分野の発展のために資料を組織化する。一方、公共図書館が提供する教育内容は概して限界がない。さまざまな専門分野について、いっそう豊かな内容で、人間の文化や科学の隅々までをおおっている。これは大学やカレッジの図書館が真似のできないことである。さらに公共図書館の教育内容は、すべての水準の多種多様な領域の要求に合致する必要がある。それは、読者が自学、探求、創造的思考といった能力の訓練を開始するため、また自分の知的構造を調整するため、さらにさまざまな生活や職場での道徳を高めるためである。

※教育サービスの標的：大学図書館の主たる対象は学生で、エネルギー、やる気、活力を土台に、理解、認知、判断の能力を持ち、また知識欲をそなえている。学生は背骨となるべき社会的貯蔵池である。一方、公共図書館は社会全体の読者を対象にしている。すなわち労働者、

小作農、学生、さまざまな仕事に従事する被雇用者、それに若者から高齢者にいたるあらゆる有名人を含む。公共図書館のあらゆる読者が、公共図書館の教育サービスの標的となる。要するに、公共図書館の教育サービスの対象者は各人が相違しており、大学やカレッジの図書館のサービス対象者と比較して広い範囲におよんでいる。

※教育の社会的利益：大学やカレッジの図書館での伝統的な教育は、いくつかの特徴を持ち、サービスの対象と領域で限界がある。一方、公共図書館での教育は、学校教育、社会教育、家庭教育といった他の型の教育の補助手段になり、統合できる。また社会の異なる要求に応じて、生涯にわたる教育サービスを学習者に提供できる。公共図書館での教育サービスは、学校教育後の継続教育という人びとの要求に合致するため、成人の知性を発達させるため、自分の知識構造を向上させるため、さらに社会的生産性を刺激するためにある。

2 上海市の都市文化と図書館での生涯教育

2.1 上海での生涯教育の発展

上海は中国で経済と文化が最も進んだ地域の1つである。それに国際的な文化交流の中心地の1つでもある。上海の経済的、社会的発展の中で、教育は最も重要な位置を占めている。特に1990年代の半ばから、上海は「第一級の都市の構築には、第一級の教育を用意しなくてはならない」との考えを形づくった。これは上海を国際経済、金融、貿易の中心（「3つの中心」といわれている）として発展させるという市の目的を進めるためである。「21世紀への飛躍に向けて」というプロジェクトで上海の政策グループは報告書を提出したが、そこでは教育の標的を「個人の全人的発達を促進する目的で、上海の生涯教育を合理的な構造をそなえるシステム、アジアで第一級のシステムに発展させる」⁴⁰⁾となっている。生涯教育システムを立ち上げる過程で、多くの公共文化機関や社会機関が支援している。そして国際競争力を持つ「学習社会」、「学習都市」を育てるために、さまざまな教育資源を最大限に活用し、社会各層に教育活動を創るためにそうした資源を統合している。

上海には世界水準の公共文化施設が多い。多くの高度な図書館、博物館、文化施設、美術館、体育館などがあり、いずれもが生涯教育のための重要な経路として活用されている。最近になって、上海は一連の文化施設を新設した。たとえば上海図書館、上海大劇場、オリエン特真珠タワー、上海美術館、上海図書モール、上海歴史博物館などである。上海図書館は10件の象徴的文化的建造物の1つになっている。その膨大なストック（図書1,000万冊、文書3,000万点）は、世界の図書館で十指に入る。現在はデジタル図書館と中心図書館システムに力を入れている。そして上海の重要な情報、文化、イデオロギーの進展を支える基地、重要な基地になることを目指している。

社会的、文化的な教育施設として、上海図書館は社会教育機能として固有の利点を持つ。すなわち広範性、継続性、多面性、広報性、柔軟性である。社会と住民にとっての重要な情報機関というだけでなく、膨大な教育資源の組織化と提供、公共文化や全般的教育の促進、新しい様式の都市文化の奨励の基地にもなっている。他の教育機関が生涯教育におけるこの固有の機能を代替できはしない。生涯教育の理解、読者の思想の最新化、新しく使いやすいサービス

様式の提供、傑出した生涯教育の土台の創造も、新しい時代の生涯教育の発展を実現するために、上海図書館が踏み出した一歩である。

2.2 上海市の文明と精神の概要

古い時代から、公共図書館は社会文明の象徴と考えられ、都市文明の形成と発展に重要な位置を占めてきた。公共図書館は人間文化の豊かな宝庫で、大量の図書と歴史的文献を所蔵している。それらは人間文明の発展の記録、歴史的なファイルであり、過去数千年に文明社会が創りだしたあらゆる立派な伝統や精神を凝縮している。こうした宝物は、人間のための無尽蔵の精神的な糧である。人間文明の進展は、公共図書館が社会文明の真の象徴であること、しばしば人びとは図書館建設を最も壮大な象徴として注目することを示している。すなわち内包を外包と統合するために、図書館建設は壮大な象徴を現実化する施策になる。上海図書館は文化的、イデオロギー的な進展を象徴する10件の建造物の1つになっている。それだけでなく、中国国家図書館とともに、世界の図書館建築の上位10位に入っている。上海図書館の外観は、内に所蔵している知識と文化の内包を示している。柔軟な仕切りが可能な広大な内部スペース、それに機能的で多様な内部スペースは、すべてが上海市の独特な文化的気質を体現している。多くの公共図書館は文化活動のための設備を図書館の重要な構成要素と把握し、多種多様な文化的活動や楽しめる行事のために用いている。たとえば物語会、現状報告会、演奏会、スピーチ・コンテスト、学習訓練クラス、文学講座、オーディオ・ビデオなどである。人間的な豊かな活動は、公共図書館を市民の文化的な生活と楽しみを中心にする。要するに、現代社会で仕事や生活のテンポが速くなるにつれて、図書館は文化を考えるに際して欠かせない場所になる。そして市の「酸素食堂」、住民のための精神的な楽園と呼ばれるのである。

都市の精神は、都市での思想や精神状況に固有の価値を有する。都市の精神という文化の香りは、都市の魂である。現代的な都市の建設から得られる達成物は、住民1人1人が求める価値や精神状況と密接に関係している。上海は中国の歴史で最も急速に発展している都市で、また「世界の都市」に向けて躍進している。そうした上海にとって、世界レベルの公共図書館が緊急に必要であり、図書館は市民への文化的教育と知識の普及をとおして、完全な指導力を持つべきである。たとえば公開読書会、公開講演会、文化的な展示などであり、市の精神の育成を促進し、上海での新しい時代の都市文明を育むためである。

2.3 上海市の豊かな息吹

現代都市の経済が急速に発展するにつれて、大衆文化への要求も劇的に増加し、社会文化の発展の鍵になっている。大衆文化はポストモダンの文化と考えられる。ポストモダンの段階の場合、文化は完全に民衆化される。ハイ・カルチャーとポピュラー・カルチャーとの隔たり、純文学と通俗文学との隔たりは消滅する。ビジネス文化という環境が形成されて強まるにつれて、文化的生産物の生産、流通、消費が生活の重要な中身になってきた。文化は、国の文化、地域の文化といった大きな文化から、組織文化、家庭文化、食文化、アパレル文化といった小さなものまで、広範で多様である。そうした文化全体が都市の華やかな文化を形成している。

したがって、大衆文化への要求と発展が驚くほどに高まるという状況にあって、都市の公共図書館は市の文化の中心として新しい課題に直面している。すなわち新しい時代において、どのようにして促進と普及という積極的役割を果たすのかという課題である。

進んだ文化の導入、高度な芸術の普及、住民の文化鑑賞力の向上は、統合的な公共文化を育成し発達させる効率的な方法である。上海図書館は深い文化の貯蔵所である。上海図書館が常に考えて探求していることは、住民が人間精神の代表作から学ぶ方法、住民がこうした代表作を理解するための方法である。さらに現代社会の進んだ文化を、幾多の家庭に持ち込む方法である。

図書館員にたいしては、資源の利点の探求、それに住民への高質の教育サービス用のコンテンツを創るためのストックの研究と分析が求められる。それは市民の育成に寄与するためである。たとえば上海図書館の視聴覚部門には、国内外製の多くのすぐれたビデオオーディオ、それに世界でも第一級の機器がある。特に上海大劇場が完成した後、劇団公演が活発になり、世界的な多くの劇団や有名な俳優／女優が上海で公演をした。市民は多種多様な芸術公演に多大の関心を示した。特に「レミゼラブル」(Les Miserables) といった古典に関心を示し、「キャッツ」(Cats) の場合は10回の公演がいずれも満席であった。しかしながら、観客は鑑賞のための知識や演技の思想を深く愛でる方法について、少々欠けるところがあった。そこに視聴覚部門の職員は機会と要求をみつけたのである。そしてオペラと音楽ドラマを鑑賞する一連のサロンを組織し、「カルメン」(Carmen)、「トスカ」(Tosca)、「ボヘミアンズ」(Bohemians)、「キャッツ」などを取り上げた。なお音楽ドラマは、音楽を用いて深遠な内容を易しく解釈し説明するものである。それに「愛好者のお茶会」も開いたが、これにはだれもが参加できた。こうした講演の主たる目的は、住民と芸術作品との隔たりをなくして、住民が偉大な芸術家の感覚に入り込むように導くこと、立派な芸術作品の真の意味を理解することにある。質のよい講演会にするために、職員は大量のストックの中から重要な芸術作品を探し出し、その分野の高名な教授を招待して参加者に分析と説明をするように依頼した。また音楽カレッジを卒業した職員を補助につけたのである。講演会の中心的な内容は、音楽を鑑賞する技能と方法である。たとえば古典音楽の鑑賞講演会の場合、モーツアルトの交響曲40番、ベートーヴェンの変奏曲、バッハの協奏曲は、参加者にリズムの理解方法を教えるために用いている。またベートーヴェンの交響曲第9番「合唱」は、メロディ構造の認識方法のためである。ムソルグスキー(Mussorgsky)の「展覧会の絵」(Pictures at an exhibition [オペラ])は、さまざまな楽器を知ってもらうためである。そして、ジョン・ウィリアムス(John Williams)の「スター・ウォーズ」(Star Wars)は、主題を理解するために活用している。それに講演では楽器演奏、ビデオオーディオ、ゲーム、およびそれらの組み合わせなど、すなわち新しい様式の手段を加味している。そのことで、参加者は優雅な芸術を生き生きとした楽しい相互作用の雰囲気の中で味わい、すぐれた作品をとおして立派な芸術家の心と精神に触れるのである。指摘すべきだが、音楽室は講演ごとに満員で、退職者、学生、会社の従業員、エンジニアなどが参加している。各講演が終わると、参加者が講演者を囲んでさらにコミュニケーションを深めている。さらに国際的大都市圏としての上海には、さまざまな領域や部門のすぐれた人材が集まって

いる。こうした人材はかけがえのない知的資源、財産である。進んだ文化や科学の普及のために、人材を活用して多くの講演や報告会を開催できる。研修会用の多くのホールや部屋があり、あらゆる講演や報告会に対応できるように各種の高性能ビデオオーディオ機器をそなえている。すぐれた学術的雰囲気と活発な芸術的な雰囲気のために、多くの有名な専門家や教授が引き寄せられ、講演を行い、参加者とコミュニケーションを深めている。たとえば一連の都市文化講演会では、有名な音楽家の何占豪が「音楽は人間の心を新鮮にする」、復旦大学の歴史地理研究所の葛剣雄教授が「アフリカ旅行をとおして歴史をみる」、上海博物館長の陳燮君が「晋唐宋元の時代の図書と絵画の宝物展示に関する説明」を、有名な東西文化交流者の靳羽西が「知識、知性、魅了」を話した。いずれもが参加者に、歴史、芸術、文化の魅力を深く印象づけたのである。さらに鮑日新教授は「女性のイメージと礼儀」、復旦大学附属中山病院長の楊秉輝は「現代人の健康な生活様式」、有名な財務専門家の徐建明が「金の運用：現代人のための賢い選択」などを話した。これらは日常生活での小さな出来事をもとに、個人の向上の仕方と生活の質の向上の方法について、役立つ考えを提供したのである。現時点、上海図書館の開く連続講演会は周知されており、すぐれた文化的事業として定評を獲得している。そして上海東方テレビ局の番組「東方講壇」で何度も放送されている。ときにこの番組の時間の半分を占める場合もある。このようにして知識は電波によってますます多くの家庭に伝わっており、テレビをつうじて多くの人は進んだ文化の動向に触れ、上海図書館が実施する生涯教育を最大限に効率的に享受できるのである。

2.4 市民の情報処理能力の育成

情報化社会では、生活の質、社会の進展、経済の発展が、次第に情報、情報の発展、情報の活用依存していく。そのような社会の場合、生活水準、仕事の仕方、余暇の使い方、教育システム、市場は、いずれも情報や知識の進展に影響される。職業、地位を問わず、また日常的な社会生活でさえも、個人は情報への強い自覚、基本的な情報知識、それに情報を収集、処理、分析する一定の能力を持たねばならない。このことによってのみ、情報社会革命にうまく適応できるようになる。結果として、情報の扱いは社会生活の基礎的条件の1つとなる。アメリカ図書館協会 (American Library Association) は情報処理能力を持つ個人を、「情報処理能力を有する個人とは、正しい情報を獲得する適切な時を認識しており、必要な情報を探索、評価、活用する能力を持っている人」と定義している¹¹⁾。またクリスティン・ドイル (Christina Doyle) は、情報処理能力を以下の10点にまとめている¹²⁾。(1)必要な情報を区別する能力、(2)完全な情報と知的な決定との関連を理解する能力、(3)情報問題を言明し、情報の必要性を巧みに表明する能力、(4)役立つ情報源を自分で知る能力、(5)適切な情報検索の方策を作成する能力、(6)さまざまな媒体で情報を使う能力、(7)情報の首尾一貫性と用法を評価する能力、(8)情報を役立つように組織する能力、(9)自分の知識構造に知識を吸収する能力、(10)批判的思考と問題解決のために情報を活用する能力である。

中国の場合、情報処理教育の思想と実践が現れたのは、比較的最近である。現在、中国の科学者や技術者の数は、1980年代の中進国での数よりも少ないし、必要な情報を見抜く能力も

弱い。こうした状況は、中国の科学や技術に大きな影響を与えている。専門家が実施した調査結果によると¹³⁾、科学技術プロジェクトの95パーセントから99パーセントの内容は文献検索で見つかるものであり、ほんの1パーセントから2パーセントだけが創造的な研究にすぎない。上海の100,000人の科学者や技術者を対象とした調査¹²⁾では、1パーセントから5パーセントだけが自分の研究に必要な情報検索能力を持っているにすぎない。この調査報告は、中国の科学者や技術者の情報処理能力は比較的到低いとしているが、他の職種については触れていない。最近になって、情報技術の活用が一般的になり、市民の情報処理能力についての社会的要求が次第に高まってきた。そのため、科学技術の領域の個人のみならず一般市民にも情報処理についての教育が必要である。これは時代の要求であり、生涯教育に不可欠な内容である。

公共図書館は都市における市民の学習センターとして、住民の情報処理能力の育成と教育に固有の位置を占め、それには以下の3つの側面がある。すなわち、(1)情報への自覚の育成、(2)情報処理能力の訓練、(3)情報倫理の育成である。

※情報への自覚が情報処理教育の土台となる：情報への自覚は、情報への個人の感受性を具体化するし、外界での情報環境の変化への動的な対応となる。そこには、個人による情報の認識というレベル、情報への反応能力、それに情報への要求の度合いを含む。情報自覚教育は主として以下を含む。(1)基本的な情報知識の把握、多様な社会情報への認識と理解、それに判断の習得、(2)実践的な教育と結びつけて情報の価値の分析を行うことで、情報への感受性と自覚を向上すること、(3)日常的な仕事、生活、研究などで生じる情報への強い関心や要求を高揚させることである。

※情報能力は情報処理教育の中核である：広く情報能力を育成することは、情報処理教育を実施するについて重要点となる。情報能力は、情報を獲得する個人の能力、それに情報の扱いと活用を含む。情報獲得能力は、さまざまな情報の程度の自覚、要求に依拠する適切な情報の迅速で正確な選択、多くの情報源から正しい情報を収集することを含む。情報を扱う能力は、主として本当に役立つ情報をみつけるために、獲得した情報を慎重に判断して分析する能力である。それは不必要な情報を除去してエッセンスを残すこと、偽りの情報を捨てて本物の情報を保持することで達成される。この能力は、学習や研究の基盤であり、将来の社会生活に必要な基礎的能力である。情報活用能力は、加工された情報を巧みに活用する能力で、情報の価値を実現するために実際の仕事や生活で用いる。

※情報処理教育を保証する情報倫理：情報倫理は、情報生産物の発展、活用、普及、それに情報技術の利用に際しての行動規準である。情報技術は社会生活の隅々まで浸透しているし、最大限の便宜と最も豊かな財産を人間に与えている。しかし伝統的な倫理や道徳に反する現象が生じているのも確かである。すなわちハッカーやウイルスなどで、いずれも情報倫理の規範に反する。ひとたび高度な情報技術が不法行為に用いられると、人間生活をまちがいなく傷つけるし、財産のみならずエネルギーと時間が多大な痛手を受ける。したがって、情報の倫理と道徳に従うこと、そしてその範囲で行動することが自分にも他者にも利益になること、さらに理想的な情報環境の構築に積極的にかかわることを教えるのは、情報処理教育の重要な内容になる。

公共図書館での情報処理教育は、学習者の年齢、職業上の要求、教育レベルといったさまざまな相違する背景を土台に、情報についての知識、学習能力、要求と目的などの現実に応じて組織しなくてはならない。そして、異なった様式や媒体の情報資源、そうした資源の検索方法と獲得方法を学習させることになる。上海図書館には第一級のCDデータベースの閲覧室とコンピュータ学習室があり、インターネットを基盤とする学習基地になっている。そこではさまざまな主題別の訓練クラスが開かれており、たとえばコンピュータとネットワークの知識、検索技能、データベース入門などがある。上海図書館の職員は、読者に効率的に情報を検索、収集する方法を教えている。特に、基礎的なコンピュータ操作技能、検索語と検索方法、ネットワーク上のデータベース、インターネット上の資源などについて説明し、読者が基礎的なネットワーク操作法、インターネット上の検索手段、情報の収集経路になじむように、またネットワーク上の情報の構造と配布、インターネット上の資源を理解させるようにしている。訓練クラスの場合、学習者は演習課題を課されるが、それは学習者の異なる関心や仕事での要求を土台にした課題で、関連する情報を探さようになっている。こうした演習の目的は、学習への関心を高めること、デジタル情報の便利さと価値を自覚させること、学習者の視野を広げることにある。

2002年、上海図書館のコンピュータ学習室ではインターネット上の情報検索が、海外からの10,866回を含めて、39,689回あった。さらに、コンピュータ技能試験などにそなえるという読者の要求を満たすために、すべてのコンピュータ端末に自学を容易にするための教育ソフトウェアを組み込んでいる。それに入門用の講義も開き、全体で延2,383名が参加した。2002年の後半から、コンピュータ学習室は名が知られたネットワーク・データベースの供給業者を招いて、特別展示会を行った。そこでは、上海の多くの関連企業の技術者に最新のデータベースを提示して紹介し、無料で試験的なサービスを提供したのである。このようにして、多くの企業や技術者が豊かな電子情報資源に目を開いたのである。指摘すべきだが、上海図書館の職員は長期にわたる自分たちの経験を土台に、参考資料や指針となるハンドブックを編纂、刊行している。たとえば『CDデータベースについての利用者マニュアル』、『ネットワーク上でのシソーラス』などである。いずれも読者が情報を探し、ネットワーク上の資源を共有するのを大いに助けるし、市民と電子資源との隔たりを小さくする。また情報への視野を広め、デジタル情報を使いこなす能力を高めるのである。

2.5 コミュニティでの生涯教育の展開

「コミュニティ」とは社会学の概念で、既存の社会の型や内的構造の研究に用いられる。特に一定の地域内の個人の集団を意味し、通常はいくつかの結合的な特性を自覚して1つのまとまりとして組織化されるものをいう。コミュニティは、同じ生活地域で共通する特徴を持ち、その地域の住民のさまざまな要求を満足させるための物質や精神を生産するシステムである。長く共同して居住することを土台に形成されるコミュニティ意識は、コミュニティを構成する基本要素となる。

21世紀に入り、学習社会の形成がコミュニティでの生涯教育の発展を刺激し、生涯教育の社

会化が目立ってきている。教育の様式は柔軟かつ多様になり、教育内容は現実の生活に近づいてきている。将来のコミュニティでは、公式の教育と非公式の教育、フォーマルな教育とインフォーマルな教育は合体し、教育活動、時間、空間、設備、資源の統合が実現するだろう。それは生涯教育の特徴である生涯、開放性、統合性、一貫性、社会性、柔軟性、普及性を充足するための支援と刺激のためのシステム、すなわち効率的な生涯教育を有機的に構築するためである。主たる目的は、コミュニティの住民が知識と技能を獲得することで、己の価値の実現を容易にすることにある。

コミュニティの図書館は、生涯教育のために豊富な学習資源を提供するし、文化教育のために空間、経路、基盤を広める。コミュニティの図書館が生涯教育に果たす主要な機能は、住民の学習活動の奨励、学習意識の高揚、社会的適性の高揚、経済と社会でのコミュニティの発展要求を効率的に先導、支援すること、公共問題や問題解決に住民を組織すること、そして最後に健全なコミュニティの精神とすぐれたコミュニティの文化を構築することである。いずれも都市の精神の形成にとって欠かせない要素である。

上海には263のコミュニティ図書館があり、その内の33は区（あるいは郡）レベルの図書館、230はコミュニティ（村と町）レベルの図書館である。平均すると、各区（あるいは郡）の図書館の蔵書は約300,000冊、各村（あるいは町）の図書館は30,000冊である。さらに、小村あるいは小路のレベルには5,000の閲覧室があり、おのおの約500冊を持っている。情報社会の進展とともに、これらの図書館の多くは次第に独自の文化的性格を形成してきている。そしてネッ

表〈4〉上海における主たるコミュニティ図書館の特徴

図書館	特徴	延入館者数 (年間)	URL
黄浦区図書館	書評、映画／劇批評	54,750	http://www.shhpl.com
黄浦区第2図書館	書評、旅行、健康	32,850	http://www.nsinf.online.sh.cn
虹口区図書館 虹口区曲陽図書館	書評、映画批評、 郷土文化	231,775	http://www.hql.online.sh.cn
静安区図書館	書評、郷土の著者	5,110	http://www.jinganlib.net
閘北区図書館	茶文化	51,100	http://www.zbilib.online.sh.cn
長寧区図書館	郷土文化情報	7,300	http://www.cnqlibn.com.cn
楊浦区図書館	環境保護	38,690	http://www.yplib.online.sh.cn
普陀区図書館	郷土文化、法律	149,650	http://www.ptlib.online.sh.cn
宝山区図書館	長江河口の大衆文化	20,075	http://www.bslib.online.sh.cn
閔行区図書館	書評、郷土文化	9,855	http://www.mhlib.online.sh.cn
浦東新区図書館	郷土史と郷土文化	12,410	http://www.pdlib.com
川沙図書館	書評、健康、郷土文化	26,645	http://www.lingkong.com
南匯区図書館	農業、郷土文化	—	http://www.libnet.sh.cn/nanhui
青浦区図書館	旅行、水産品	—	http://www.qplib.sohu.com

トワークによってつながり、幅を広げてきている。表〈4〉「上海における主たるコミュニティ図書館の特徴」で、いくつかの図書館の状況をまとめておいた。

3 デジタル化、ネットワーク、それに図書館での生涯教育

3.1 伝統的図書館での生涯教育にたいするネットワーク環境の影響

3.1.1 インターネット上の情報

インターネットの出現と急速な発展につれて、情報資源の構成は大きく変化してきた。図書館だけとはいわないまでも、もともと読者が情報を獲得する主たる経路は図書館であった。しかし図書館はもはや読者の唯一の選択肢ではない。いまではインターネット上でクリックすれば、情報を収集できる。情報がインターネット上で収集され、情報の欠乏という現象は基本的に改善されたのだが、しばしば価値ある効率的な情報は、膨大な無価値、悪性、虚偽の情報の下に隠れている。そのため読者は対処に困惑することも多い。したがって、読者の多くは必要な情報を迅速、効率的に獲得するために、専門家の助けと案内を緊急に必要とする。

3.1.2 読書習慣

ネットワーク環境にあって、多くの読者の読書習慣は次第に変化しつつある。読者はコンピュータの画面上での情報収集と読むことを好んでいる。さらに新しい技術が次から次に生まれており、伝統的な図書での読書という様式に挑戦している。

多くの人は、電子図書には多くの利点があるものの、紙の刊行物と比較した場合には持ち運びと読みやすさに欠けると考えている。したがって電子出版物が紙の出版物に代わりえないと考えている。しかしこうした結論は、現在の技術水準を土台に形成されている。情報技術の発展で読み易くて持ち運びに便利な電子出版物が、確実に市場に出回るのであろう。そうなれば、最終的にはこれまでの読書習慣を根本的に変えるだろう。たとえば1990年代後半のアメリカでは、電子図書の読書機器が開発され、それは重さが620グラム、縦18cm、横12cm、厚さ2cmで、ごく普通の本と似ている。そして有料あるいは無料で、インターネットから電子図書をパソコンでダウンロードできる。いま1つの例を示すと、アメリカの電子インク会社（E-Ink Company）が開発した電子紙（e-paper）の技術がある。これは実際には薄い画面（displayer）で、厚さは1mm以下、紙のような原料で薄くて柔軟性に富む。電流が流れると、電子紙の中の電子リンク（e-link）が色を表示するが、電気を供給しなくても表示を続ける。この電子紙は曲げることができるし、本として製本することも、新聞のような様式で使用することもできる。したがって伝統的な読書習慣に、いっそうかなっている。こうした新しい技術が読者の習慣を即座に変えることはできないが、読書習慣が徐々に変化するのは確実である。

3.1.3 情報を獲得する方法

初期の電子資源の主たる媒体はディスクであった。1980年代の後半から1990年代の中頃にかけては、コンパクトディスクが媒体として最も一般的であった。しかし1990年代後半は、インターネット上の情報とCD出版物の両方が栄えた時代であった。インターネットの場合、

広帯域が急速に増え、通信料金が大幅に下がった。また大容量のハードディスクが急速に市場に出回り、洗練された一連の技術が開発されてきた。一方、コンパクトディスクの場合、膨大な文書を読むことは不便で不完全であった。そこでデジタル化された情報資源は、ネットワークをつうじて提供するという時代に参加し始めた。要するに、電子資源と電子出版の進展が、読者の情報獲得の経路を根本的に変えてきているということである。

これまで、読者が情報を獲得する主たる手段は以下のものであった。(1)最初に文献を読む：これは主として中核となる雑誌や新聞であったりする。そして関連する論文を読み、続いて必要とする文献に対処する。(2)二次文献の検索：必要な資料を求めて参考図書やCDを用い、当該論文などをみつける。比較すると、ネットワークは価値ある膨大な情報を持ち、検索が容易で、データの獲得が迅速である。読者は家のコンピュータで、情報の収集を完了できる。

3.1.4 情報の媒体

従来の図書館のストックは主として紙の形態であった。しかし情報技術とネットワークの進展につれて、ストックにおけるデジタル資源の比率は次第に大きくなってきた。これには主に2つの要因がある。(1)図書館はネットワーク時代の発展に応じるために、積極的に電子資源を取り入れている。(2)多くの出版社は紙形態の出版を減じ、デジタル化された出版物を増加させ、したがって図書館は受身的にデジタル資源を取り入れている。

2002年に上海図書館は文献の購入に8,000万元を費やし、そのうち1,000万元を電子資源に投入した。現時点では、40以上のCDデータベース、20を超えるネットワーク上のデータベース、中国語の電子図書10,000点、外国語の電子図書1,100点で電子図書は全体として30,000冊を超えている。それらは、政府と政策、保険と医学、地方情報、教育、商業と経済、社会と行動科学、芸術と人文科学、法律、科学技術、参考図書などにわたっている。

3.1.5 サービスの様式と標的

現在、上海図書館は電子計画とネットワーク計画の新たな構築段階に入っている。図書館のサービスの標的と利用者の要求は大きく変化した。その結果、サービス内容、サービス測定、サービス様式が変化した。図書館は伝統的なサービスを維持するだけでなく、伝統的なサービス環境からネットワーク環境への転換を実現しなくてはならない。多様な種類の図書の情報サービスをネットワーク上で展開するために、ストックしている伝統的な情報資源を積極的にネットワーク資源に転換しなくてはならない。それとともに、ネットワーク上の豊かな情報資源を図書館のストックとして取り込み、読者に提供しなくてはならない。ネットワーク時代にあって、情報社会における図書館の中核的な役割は、いついかなるときでも、時間と空間を節約し、双方向のサービスを提供することにある。

ネットワーク環境のもとでは、ネットワーク上のさまざまな情報は多面的に混合している。すなわち高質の学術的情報から低水準の情報までが混在している。社会に有益な情報と有害な情報とが混ざっている。またさまざまな言語やイデオロギーの情報が混沌となっている。さらにネットワーク上の情報の特徴として、多面的、無標準化、絶え間ない変化といったことがあ

る。したがって情報検索に統一的、標準的な方法を採用できない。図書館にとって情報サービスの鍵は、読者の訓練、ネットワーク案内システムの構築にある。こうした方式によってのみ、必要な情報の欠乏と無駄な情報の過剰という共存問題を解決できる。

3.1.6 新しい生涯教育の様式

図書館の内外の環境、読者の読書習慣、情報の獲得経路は、急速に変化している。そのため伝統的な図書館が提供する生涯教育サービスでは、社会の要求を十分に満たすことはできない。図書館の電子資源の利点を活用して、読者に効率的にサービスをする方法を、早急にみつけないてはならない。いまや図書館は新しい様式、すなわち遠隔教育を立ち上げつつある。

3.2 遠隔教育の発展

3.2.1 遠隔教育の歴史的展開

遠隔教育は遠隔学習ともいわれる。1980年代に世界的に有名な遠隔教育の専門家デズモンド・キーガン (Desmond Keegan) は、遠隔教育の特徴として6点を指摘し、この種の教育の定義あるいは要素として使用した。その6点が以下である¹⁴⁾。

- ▶ 教師と学生が地理的に離れている。
- ▶ 教育組織の資格は政府の教育局が認可する。
- ▶ 現代の通信技術で教育内容を伝達する。
- ▶ 学生と教師が相互作用機能を果たす。
- ▶ 学生はいかなる場所、いかなる時間でも学習できる。学生を集めての授業は多い場合も皆無の場合もある。
- ▶ 仕事の分業、大量生産、集合性、協力提携など、いっそう産業的な教育様式をとる。

いまのところ、一般的にこうした教育は3世代目で、3つの型が歴史的に取って代わってきたとされる。遠隔教育の第1世代は通信教育で、1840年にアイザック・ピトマン (Isaac Pitman) が速記の通信教育を始めたのが最初である。通信教育は現在でも成人教育に役割を果たしている。20世紀に入って情報技術の進展により、通信教育は放送やテレビを通じての教育に転換し始めた。これは遠隔教育の現実的にして可能な、そして効率のよい方式で、現在でも中国での遠隔教育の主流となっている。そして今日になって遠隔教育の第3世代が、インターネットを基盤に発展しはじめている。ある意味で、遠隔教育は「ネットワーク教育」と似た語である。

3.2.2 遠隔教育の国内外の状況

情報の時代にあって、高度な技術を用いての情報化教育を促進するのは、多くの国の政府にとって重要な政策になっている。イギリスの場合、2002年にすべての学校、カレッジ、大学をインターネットに接続しなくてはならないとしている。日本の場合も、新しい産業の創設、国際競争力の高揚、経済蘇生への刺激といった政策の一環として、初等中等学校へのインターネットの普及やコンピュータ・ソフトウェアの作成といった施策を行っている。アメリカでの遠隔

教育はまさに上昇機運にあり、インターネットでの大学や学生数はうなぎ上りである。1998年末の状況をみると、公立4年制大学の78パーセント、公立2年制大学の64パーセントが遠隔教育に乗り出しており、全部で54,470のコースを提供している。インターネットで学ぶ学生数は毎年300パーセント増加している。遠隔教育に正規に登録した学生数は166万人に達する¹⁵⁾。

中国政府も遠隔教育に大いに注目しており、『21世紀に向けての教育活性活動プログラム』は、「現代的な遠隔教育施策を実行し、開かれた教育ネットワークと生涯学習システムを構築する」と指摘している。とはいうものの、中国での遠隔教育の実践は先進国よりも大幅に遅れている。やっと1999年に始まったばかりで、「現代遠隔教育施策」が中国のいくつかの大学、すなわち清華大学、北京大学、北京通信大学などで実験されたにすぎない。2000年9月の時点では、31の大学だけが遠隔教育の実験を認められている。なお中国の場合、遠隔教育のための技術と設備は依然として洗練されていない。

3.3 遠隔教育における図書館の位置と役割

遠隔教育での図書館の位置と役割を検討する際、まず図書館の教育的機能に触れる必要がある。中国の古い図書館の主要な仕事として、読み書きできない人をなくすという任務があった。しかしごく少数の人がそうした図書館で学ぶ機会を得たにすぎない。それは後ろ向きの運営思想、すなわち「閉じた運営」、「貴族へのサービス」、「読者を無視した蔵書管理」のためである。したがって図書館の教育機能は十分に発揮できなかった。やっと現代の図書館の時代になって、図書館を住民に開放するにつれて、次第に教育的役割が作用してきた。文化的知識や科学的知識の普及、人びとの質の向上、社会と文明の発展への刺激といった図書館の役割は、固有のものである。この20年間は、情報技術の図書館への適用が進み、また知識についての社会の要求が高まった時代である。図書館の教育的機能も高まり、図書館はいっそう豊かな内容と様式で社会の隅々をおおうことになった。このような結果、図書館の教育的機能は広く認識され知られるようになった。一般的に公共図書館は「囲いのない大学」、「社会の大学」と呼ばれている。

今日の統合されたグローバルなネットワーク環境にあって、現代の図書館は電子図書館の時代に向かいつつある。インターネットを土台とする遠隔教育の発展で、図書館は遠隔教育のために情報資源の主たる供給者になる必要があるし、遠隔教育事業で重要な位置を占めねばならない。現代の遠隔教育の中身は、図書館の社会教育機能と一致している。そして遠隔教育システムは図書館の参加と支援を必要とする。図書館は社会教育の目的を達成するために、現代の遠隔教育の技術を用いて社会にうまくサービスできる。遠隔教育サービスによって、図書館の情報サービスは直接的、間接的に社会的、経済的な利益を生み、そうした利益は明白である。大学その他の機関の教育活動と統合された図書館の教育活動は、理想的な遠隔教育を確実に支えるだろう。

図書館が提供する遠隔教育の様式は、ネットワーク上でのレファレンス、目録の遠隔(remote)利用、ネットワーク上でのデータベース資源の検索、ネットワーク上での文献提供、ネットワーク上での電子図書の借り出しを含む。

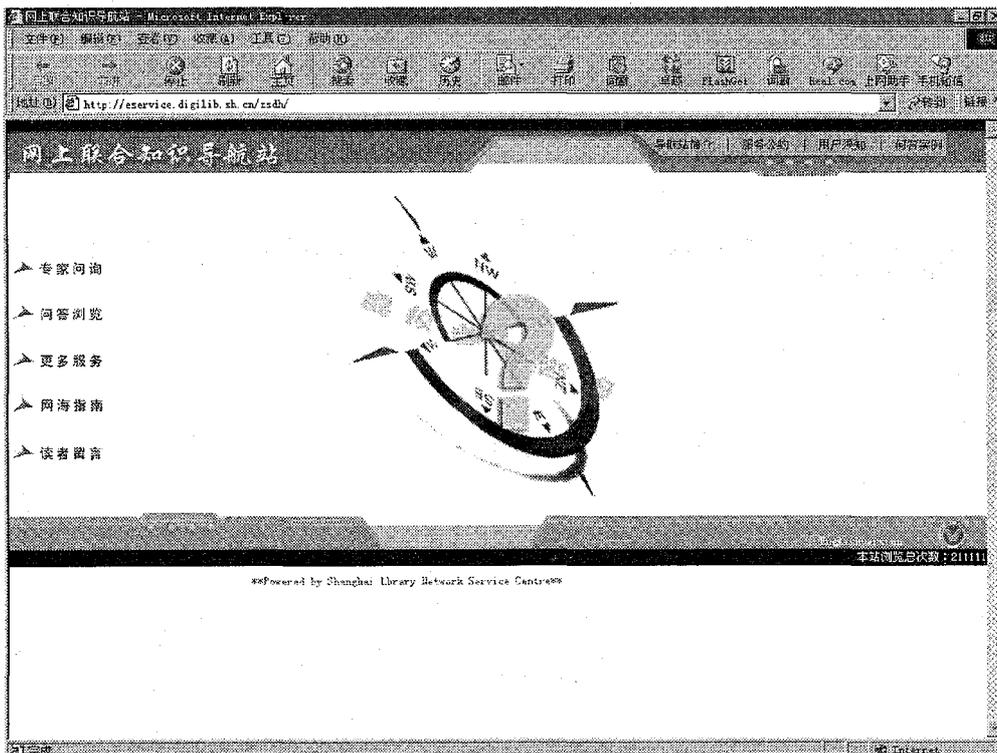
3.4 上海図書館の遠隔サービスと生涯教育

3.4.1 ネットワーク上でのレファレンスと知識の案内

「上海市中心図書館ネットワークの合同知識案内」は、上海での文献資源に関する共同の発展とサービスの共有を土台にしている。これは主として区や郡のレベルの図書館と諸機関や大学の図書館で構成され、上海図書館を中心とする。この種の組織は中国では最初で、技術者や研究者に高質の専門的レファレンス・サービス、知識案内への新しいサービス・プログラム、それに上海中心図書館のネットワーク・サービスと知識案内能力との高揚のための新しい測定法を提供することにある。

案内ウェブサイト (<http://eservice.digilib.sh.cn/zsdh/>) [図〈3〉「上海図書館のオンライン・レファレンス・サービスのホームページ」参照] は、情報、ネットワーク、案内役という3つの要素で構成、運用されている。このウェブサイトは、主に上海の多くの図書館および関連情報機関を基盤に、図書館の豊かなストック資源とインターネット上の多種多様な情報資源で支えられている。青年や中年の参考図書館員チームがネットワーク知識案内役として、上海の図書館情報コミュニティに展開している。いまやこのサイトは、上海図書館が生涯教育サービスを提供するに際して、重要な経路になっている。現時点では、全部で21名の知識案内役がいて、いずれもが専門的背景を持っている。読者は自分の質問の学問分野に応じて、参考図書館員を選択できる。満足できる回答が、1日から4日の実働日でだされるだろう。上海のストック資源とインターネット上の情報資源の発展と活用を高めることで、上海のさまざまな図書館

図〈3〉上海図書館のオンライン・レファレンス・サービスのホームページ



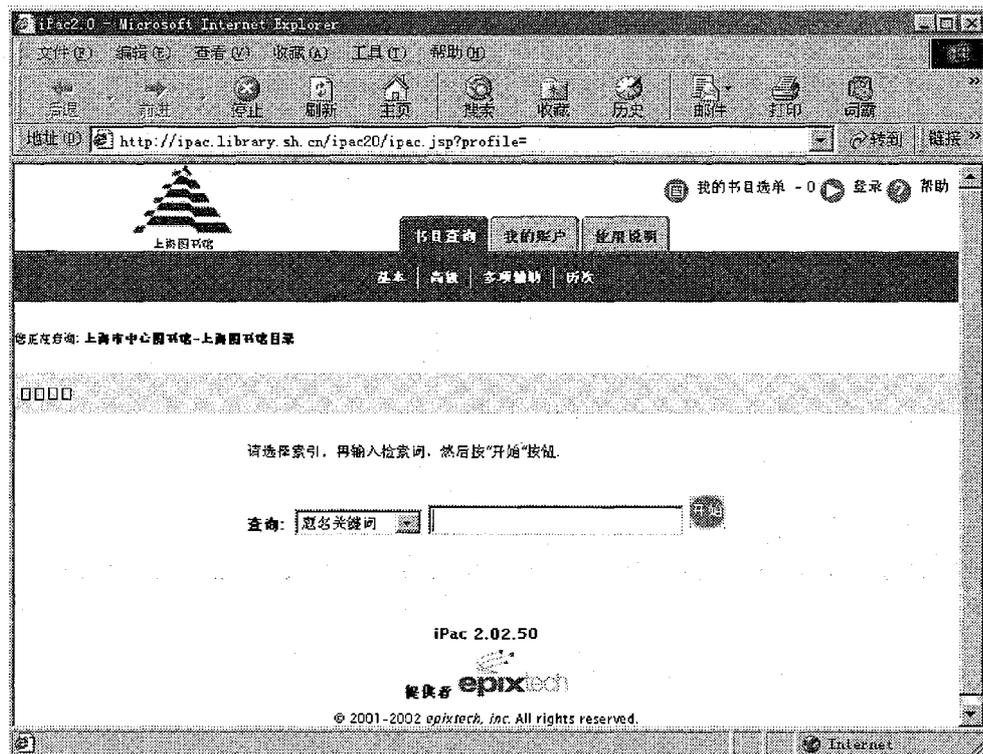
がすぐれたレファレンス・サービスをネットワーク上で提供する。これは知識経済社会のすみずみまで利用者に知識の案内をするという図書館の役割を十分に実現している。

この案内サイトは2001年5月28日から試行し、上海だけでなく中国各所、さらには海外の読者に1,000件以上のレファレンス・サービスを提供した。この試行は完全に成功を遂げ、評判を増している。現在、この案内サイトは1日に10件から20件を処理している。いっそう多くの読者にいっそう高質のサービスをするため、香港嶺南大学 (Hong Kong Lingnan University)、シンガポール国立図書館 (Singapore National Library)、マカオ中央図書館 (Biblioteca Central de Macau) と協力し、そうした図書館はおのこの香港、シンガポール、マカオに関するレファレンス・サービスを主に提供している。主たる標的は、この案内サイトにいっそうの活力、活気、豊かさ、効率を与えることにある。

3.4.2 遠隔 (remote) 目録検索

WebPac はネットワーク目録検索システムで、アメリカン・エキスピッチ社 (American Expitch Company) が Z39.50 (ネットワーク情報伝送プロトコル) に依拠して開発した。WebPac は上海図書館、上海交通大学図書館、上海復旦大学図書館、華南理工大学図書館をはじめとして、多くの中国の大学が使っている。いまや上海図書館の WebPac から、上海交通大学図書館、上海復旦大学図書館、香港科学技術大学図書館、アメリカ議会図書館などの目録やストックの情報を、統一されたインターフェイスで検索できる。WebPac の URL は以下の

図〈4〉上海図書館の OPAC



とおりである (http://ipac.library.sh.cn/ipac20/ipac.jsp?profile=#focus) [図〈4〉「上海図書館のOPAC」参照]。

上海図書館の目録検索システムである WebPac は5つの検索ポイントを用意している。すなわち著者、タイトル、キーワード、主題 (subject)、標準図書番号 (standard book number) である。また3つの検索方式、すなわち簡略検索、詳細検索、それに結合 (compound) 検索という画面を用意し、多様な検索が可能である。

簡略検索の場合、検索のアプローチ、検索する語、検索結果を表示し、簡略な目録情報、すなわちタイトル、著者、刊行地と刊行年月が表示される。「レコードを見る」をクリックすると、詳しい目録情報の結果を示すウェブページに入る。そこでは、抄録といった図書についての詳しい情報や、図書番号、所蔵館、館内所蔵の有無、禁帯出の是非といったストックにかかわる情報を知ることができる。

3.4.3 ネットワーク上での電子図書の閲覧と貸出

上海図書館の中国語電子図書は、ファンツェン・アパビ (Fanzheng Apabi) 電子図書システムが組織化し、ネットワーク上での電子図書貸借 (rent) サービスを提供している。そのURLは以下である (http://apabi.digilib.sh.cn/) [図〈5〉「上海図書館の電子図書のホームページ」参照]。そこには10,000点30,000冊の電子図書があるので、1点につき3冊である。そうした図書は、社会学、哲学、宗教、歴史、経済、経営、文学、娯楽と余暇、数学、化学、

図〈5〉上海図書館の電子図書のホームページ

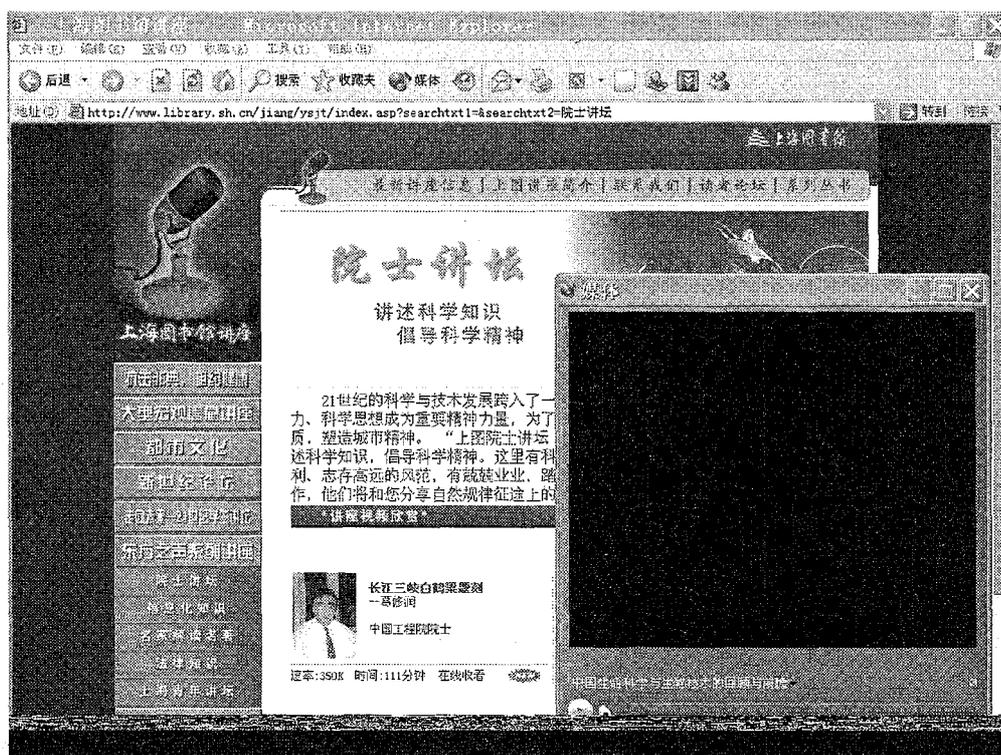


地理、生物、医学、工学、機械学、繊維など多くの学問分野をおおっている。上海図書館の有効な図書館カードを持つだけで、読者は電子資源案内ウェブページで、電子図書コードを請求できる。そして家で上海図書館から電子図書を借りることができる。上海図書館はNetlibraryのシステムを採用して、外国語の電子図書1,100点以上を提供している。読者はこれらの電子図書を上海図書館内で楽しむことができる。

3.4.4 ネットワーク上での講演会

表〈3〉「上海図書館主催の10件の講演シリーズ」で示したように、「上海図書館講演会」は24年間の伝統を有し、「概況講演会」、「情報化講演会」、「新世紀フォーラム」、「上海青年フォーラム」、「著名専門家による名作講演会」など、多くの題目で一連の講演会を行っている。こうした講演は、文化、教育、科学、技術などにわたっている。現在、上海図書館はいくつかの講演をデジタル化して、上海図書館のホームページ上に置いているので、ネットワーク上で60以上の講演にアクセスできる。URLは次のとおりである（<http://www.library.sh.cn/jiang/>）〔図〈6〉「上海図書館の講演会のホームページ」参照〕。

図〈6〉上海図書館の講演会のホームページ



4 公共図書館での社会教育サービスの動向

4.1 複合型・専門家型の図書館員

情報社会にあって、知識を扱う人間の能力は、ますます多種多様な情報窓口に頼るようになりつつある。しかし情報のゴミ、雑音、混乱が、情報を求める人を混乱させている。そこで情報の案内役としての図書館は、図書館自体の全体的能力を高めなければならない。それは図書館自体の知識構造を、サービスや創造性の要求に適するように最新のものにするためである。また情報の価値を効率的に確定することで情報の識別の強化に注意を払い、読者を的確に助け、案内するためである。住民は図書館に生涯教育サービスを待ったなしに求めているが、図書館はこのサービスの複雑な状況に直面している。主たる課題は職員の知識不足である。職員の知識構造はあまりにも単純である。すなわち図書館情報学、外国語、科学の1つの分野あるいは工学、人文科学の1つの分野というふうには、おおうにして1人の職員は1つの分野しか持っていない。したがって大多数の中国の図書館は、現代図書館で高質のサービスをするのに必要な知識、すなわち包括的知識を有する人材を欠いている。図書館情報学に加えて、生涯教育を担当する図書館員は、自然科学か人文科学の1分野が得意でなければならず、また高位の文化的な業績、それにすぐれたイデオロギーを持たねばならない。それにまた、図書館情報学の領域で蓄積された知識は図書の扱いに限定されてはならず、図書館オートメーション、デジタル資源、情報検索に欠かせない情報技術、コンピュータ技術、ネットワーク技術の領域も重要となる。将来の図書館は情報化社会に存在するので、図書館員は進展する情報技術を習得してはじめて、便利な情報サービスの提供のために現代的なツールを巧みに活用できる。自然科学の習得によって、科学技術、工学の領域、複合分野、先端分野の現在の知識を求める読者の要求、すなわち案内役としての要求に応じることが可能となる。そして複合分野の情報を探している読者に解決法を与えることができるし、未来の図書館で高度な専門レベルの情報サービスのために、すぐれた知識基盤を構築できる。社会学や人文科学の分野は、経営、文学、政策、言語、法律、経済、歴史、地理、行動科学をおおい、社会的イデオロギーの進展についての正しい分析、高度な社会文化の育成、新しい様式の社会文化サービスの創造に責任を負う。現代の公共図書館には高水準の包括的な人材チームが必要で、多様な学問分野への対処、新しい技術の習得、異なる学問分野や工学を主専攻とすること、情報を巧みにあやつる能力、さらに十分な創造性と探求能力を持つ必要がある。こうした包括的なチームを土台にしてのみ、公共図書館は情報源の発展と活用という事業を強化できる。また生涯教育にたいする住民の要求に真に答えて、「知識を提供し、ビジネスを孵化させ、解決を与える」という役割を達成できる。さらに将来の公共図書館で、次第に多様化、専門化、個人化する社会情報サービスを実現できるのである。そのようになれば、公共図書館の図書館員は情報助言者、知的専門家というイメージとともに、社会で積極的役割を果たすことになる。すなわち、あらゆる水準の多様な領域をおおう情報サービス、教育サービスを住民に提供するということである。

4.2 人間性重視の生涯教育サービス

現代社会では情報の環境と位置が変化しており、情報の需給状況と需給関係は次第に多様化

に向けて変化しつつある。そうした進展状況にあって、公共図書館の伝統的なサービスの内容と様式は次第に無力になり、ネットワーク上での現代化され産業化された情報の生産、流通、サービスに取って代わられるだろう。そこで公共図書館のサービスの強調点は、積極的、能動的に転換を強いられる。すなわち文献の組織化から知識の組織化への転換であり、それは現代情報社会における住民の情報非対称と住民のデジタル格差を最小限にし、消滅させるためである。一方、すぐれた図書館業務とサービスのためには、読者の情報心理や情報ネックを分析するために、さまざまな読者の情報要求の特徴を調査研究する必要がある。現時点をみると、公共図書館は深層レベルでの読者の要求についての理解を欠いている。しかし生涯教育は、異なる仕事を持ち、年齢や文化的背景も異なる、さまざまなグループからの知識や技能に関する多種多様な要求に直面している。住民要求に応じるために最大限に効率的な教育サービスをすべきだが、その方法の探求は重要な課題となる。と同時に、ストックとデジタル情報資源を研究し発展させることも、強調されなくてはならない。すなわち資源に含まれる豊かな情報の内容と資源の相互関係を掘り返して明らかにすることである。そのことによって、要求に応じて資源やサービスを統合し、生涯教育サービスのおいていっそう人間的な内容と様式を創出できるのである。また高価な電子資源の評価と選択には特別注意を払うべきである。すなわち伝統的な紙の文献と相互にうまく補っていて、便利さと効率を十分に発揮しているかということである。

4.3 活動的な遠隔教育サービスの全面展開

公共図書館にとって、特に上海デジタル図書館、「上海市中心図書館と情報文献の共有コレクションとサービス」の発展につれて、ネットワーク化とデジタル化は最も重要な方向となる。さまざまな画像、データ、テキスト、ビデオ、オーディオ、フィルム、マルチメディアがあちこちに散在しているが、それらは体系化、組織化、標準化されるだろう。そして教育と学習のための膨大なデジタル資源として構築され、社会にとって真の「知識の大海」が作られるだろう。データの発掘、知識管理をはじめとする情報技術の適用は、資源の発展と活用にも効率的なツールを提供する。図書館は住民の学習のために、資源に関する新たな第2段階の発展を実行すべきである。それは学習者の特徴にしたがい、全面的にネットワークを活用する活動的で積極的な生涯教育サービスを、学習者に提供するためである。

最初の取り組みは、生涯教育での「面」にかかわるサービスを実現するために、教育の普及機能を最新にすることである。公共図書館は己の人材と技術の利点を掘り起こし、多様な分野の関連する専門家と協力をしなくてはならない。そのことで、さまざまな社会的発展段階にある緊急の要求に応じた特別なサービスを展開できる。図書館の文献と情報という利点を、専門家の経験的な長所と統合するのは賢明なやり方である。そのことによって、新しい知識サービスの成果を創出して、しかるのちに最大限に幅広い学習者の利用のためにインターネット上に発行できる。

第2の取り組みは生涯教育での「点」にかかわるサービスを実現するために、教育という固有な機能を強化することである。学習者は年齢、文化的背景、知的レベルが相違するので、学

習能力にはばらつきがある。読者の素質にしたがって、どのようにサービスを提供するか、また読者の混乱をどのようになくすかは、将来の生涯教育にとって最も重要な点であるし、重大な課題となるであろう。最善の解決法は、都市の公共図書館が文化と科学技術の情報の中心地、精神の凝集作用の場所としての役割を果たすことである。また社会の各種知識の人材を専門家集団やヴァーチャル・ネットワークに組織化し、多様な学習コースの資源を構築することである。そのことによって、個人の発達に適する深層レベルの知識と学習の案内ができる。

要するに公共図書館がなすべきことは、しかるべき読者に時機をえた的確な解決法を与えることにあり、公共図書館のすべての学習資源への便利なアクセスを住民に提供するために、図書館と読者の間のあらゆる障害を除去して、効率的な相互作用の経路を築き上げることにある。

結 論

情報社会と学習社会という新しい時代にあって、公共図書館は社会の情報の中心地、重要な情報学習基地であり、社会の進展と都市の発展における公共図書館の位置は重要性を高めている。また公共図書館が担う生涯教育という社会的使命は、格段に重くなってきている。公共図書館での生涯教育サービスを独自のものとして発展させる展望は、知識と技能の拡大を求める個人のニーズ、情報面での社会の発展を求める要求、精神や文化面での都市の進展を求める要求を満たすことにある。高度なデジタル情報技術、コンピュータ技術とネットワーク技術を活用して、伝統的な文献資源を現代的な電子資源と効率的に統合する。そのことによって、最新型の開放的な社会的生涯教育の基盤に向けて、社会にあるすべての知識の力を組織化し凝集する。これが公共図書館での生涯教育の主たるモチーフである。確かに公共図書館での生涯教育サービスは、社会的な生涯教育システムの発展で最も明るい光景であろうし、都市の進展と社会の発展にとって最も力動的なものにちがいない。

謝 辞

本研究と報告書執筆の過程で、上海図書館の仲間から多くの価値ある情報を得ることができた。文献提供センターの朱普徳氏は熱心に何年にもわたる読者統計について情報を提供してくださった。展示・研修センター講演部の越景国氏と拱佳蔚氏からは、講演についての情報とデータを獲得できた。読者サービス・センター視聴覚部の越晶氏は、彼女の仕事に関するデータと音楽サービスについての情報を提供してくださった。また教育訓練センターの胡緒氏は、教育と訓練についての詳細な統計を作成し、再構成したのである。こうして入手したすべてのデータや情報は、本プロジェクトの土台となった。情報を提供してくださった同僚には心からお礼を申し上げる。

最後に、特に魏家雨氏には深甚なるお礼を申し上げたい。氏は上海図書館上海科学技術情報研究所の教授で元諮問グループ長であり、現在は諮問グループの執行責任者である。魏家雨氏は貴重な時間とエネルギーをさいてくださり、積極的な助言、本報告書の点検にかかわってくださった。

注

- 1 付翠玲 21世纪的图书馆与终身教育 现代情报 2000 (3) 58-59; Fu Cuiling "Library and Lifelong Education in 21 Century," *Modern Information*, 2000 (3) 58-59.
- 2 联合国教科文组织国际教育发展委员会, 华东师范大学比较教育研究会译 学会生存, 教育世界的今天和明天 北京人事出版社, 1996.10; "Learning Living, Education World of Today and Tomorrow," International Education Development Committee of UNISCO, Tran. by Comparative Education Study of Huadong Normal University, Beijing Personnel Press, Oct. 1996.
- 3 陶德言 知识经济浪潮 北京:中国城市出版社,1998; Tao Deyan "Knowledge-based Economic Wave," Beijing, China City Press, 1998.
- 4 秦进红 21世纪图书馆的教育职能 图书馆建设 2001 (3); Qin Jinhong "Education Functions of Library in 21 Century," *Library Construction*, 2001 (3).
- 5 中国では「中国希望プロジェクト」があり、貧しい家庭の子どもの教育向上のために寄付を募っている。本文で述べた成人も教育での援助を必要としているので、「第2次希望プロジェクト」と命名しておいた。
- 6 上海図書館の場合、特別文書とは特許、規格書 (standard)、政府刊行物を示し、1点 (a unit of copy) ごとに数える。たとえば特許の1点を文書1点としている。
- 7 現在、中国では人口調査登録制度を実施している。特に上海などの大都市をはじめ、都市では人口の膨張を抑制するために、住民 (permanent residents) の数を依然として抑制している。一時的な住民 (temporary residents) は住民ではないが、仕事のために短期的に都市に居住している者をいう。
- 8 上海図書館の各読者は図書館カード (reading card) のために登録しなくてはならない。そして1年ごとに少額の利用料を払って更新する。図書館カードがなければ入館できない。
- 9 1911年の革命から1948年の中華人民共和国成立までの間に刊行された図書をいう。
- 10 上海市迈向21世纪的课题领导小组 迈向21世纪的上海: 1996-2010年上海经济、社会发展战略研究。Project Leading Group of Shanghai Towards 21 Century "Shanghai Towards 21 Century: Strategic Research of 1996-2010, Shanghai Economic and Social Development."
- 11 "Information Literacy Initiative," 30 September 1997.
- 12 袁昱明 狭义图书馆教育职能论 中国图书馆学报 1998(3); Yuan Yuming "Narrow Education Functions of Library," *Chinese Library Journal*, 1998 (3).
- 13 成东娥 继续教育与信息素质教育 2000(3) 88-89; Cheng Donge "Continuing Education and Information Education," 2000 (3).
- 14 王文英 对图书馆开展远程教育的分析和研究 河南图书馆学刊 2002, 22 (6) 50-52; Wang Wenying "Analysis and Study on Distant Education of Library," *Henan Library Journal*, 22 (6), 2002, p. 50-52,
- 15 李纪 宋天华 图书馆远程教育的深层次思考 图书馆建设 2001 (2) 62-64; Li Ji and Song Tianhua "Pondering Deeply Over Library Distance Education," *Library Construction*, 2001 (2), p. 62-64,

参考文献

- 持田荣一, 龚同 终身教育大全 中国妇女出版社 1987
朗格让, P., Lengrand, P., 滕星 终身教育导论 华夏出版社 1988.10
陈乃林 面向21世纪中国终身教育体系研究 高等教育出版社 2002
陈志仁 图书馆将成为人们终身教育的学校——知识经济时代图书馆教育试析 佛山科学技术学院学报(社会科学版) 2002,(2) 85-88
欧阳红红 试论图书馆的终身教育职能 漳州师范学院学报(哲学社会科学版) 2000, (3) 113-115
罗授年 论21世纪公共图书馆的社会角色 图书馆工作 2000, (2) 34-35
付翠玲 21世纪的图书馆与终身教育 现代情报 2000, (3) 58-59
史华坤 图书馆与终身教育 中共宁波市委党校学报 2000, 434-36

林・顧・川崎：上海の公共図書館と生涯教育

- 王纯 图书馆对终身教育的重要意义 大学图书情报学刊 2001, (2) 53-54
曹雪莉 信息时代图书馆教育功能的创新 情报杂志 2001, 20 (B06) 175-176
王文英 对图书馆开展远程教育的分析和研究 河南图书馆学刊 2002, 22 (6) 50-52
李纪 宋天华 图书馆远程教育的深层次思考 图书馆建设 2001, (2) 62-64
徐涌 图书馆在远程教育中的作用及发展对策 图书馆学研究 2000, (4) 42-45
肖沪卫 走进前沿技术 上海科学技术文献出版社 2002.7
邓尚民 袁玉珍 Internet 与图书馆的信息服务 情报科学 2000, 18 (5) 425-426,430
陈有富, 李刚, 金玲 网络环境下的高校图书馆信息服务工作 郑州牧业工程高等专科学校学报 2002, (2) 154-156
钱佳平 知识经济时代的图书馆教育职能--信息素养教育 1999, (1) 15-17
成东娥 继续教育与信息素质教育 陕西教育学院学报 2000, (3) 88-89
吴建中, 金晓明, 徐强 消除数字鸿沟 提高信息素养--以上海社区图书馆为例 图书馆杂志 2002, (11) 23-28
吴建中 充分发挥图书馆终身教育的功能 北京图书馆馆刊 1999, (1) 26-27
岳经纶, 陈建强 终身教育与学习型城市: 面向21世纪的上海教育改革与发展
<http://www.epa.ncnu.edu.tw/epforum/vol3no2/6-4.html>

付記：図3 - 図6は現在では若干画面が変わっている。また図3のURLは次のように変化した。

<http://zsdh.library.sh.cn/>